

1. 事業の位置付け

事務事業名	保育所ふれあい交流推進事業		
事業担当	健康・こども部 こども家庭課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'02	基本目標2 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	
	'01	①〈地域力〉 地域組織や市民活動の力を育て、まちづくりに活かす	
	'03	3 地域社会で家庭や地域の子育てする力を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	入所児童、地域住民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 民間保育園】		
目的・目標		事業の概要	
地域ぐるみの交流を通して、児童のお年寄りへの「いたわり」や「思いやり」の心を育て、社会性を養うとともに、地域の子育てが支えられています。		保育所の持つ地域性を活用し、児童の思いやりを持つ心や社会性を養い、生きる力を培うため、世代間交流事業、異年齢児交流事業、自然体験活動などを実施します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	実施保育所数				単位	園
	説明・算定式	延べ実施保育所数					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	36	36	37	37		
	実績	36	37	38	39		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	交流事業数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	2000	2200	2400	2500		
	実績	2305	2462	2317	2335		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	児童の思いやりを持つ心や社会性を養い、生きる力を培うために必要性は高いと思われます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	保育園が行う子育て家庭交流等は、入所児童の思いやりを持つ心や社会性を養い、生きる力を培うのに有効です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	事業が適切に実施されることにより、入所児童の思いやりを持つ心や社会性が養われるとともに、生きる力が培われ、事業目的を達成するのに妥当です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事業内容等を検討し、更に効率性を高めていきます。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		子育て家庭交流、中高生との体験交流など	子育て家庭交流、中高生との体験交流など	子育て家庭交流、中高生との体験交流など	子育て家庭交流、中高生との体験交流等の実施
財源内訳	国庫支出金	450	450	0	450
	県支出金	800	900	750	630
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	1,850	1,950	2,550	2,270
事業費 (A)		3,100	3,300	3,300	3,350
執行率 (%)		105.08	111.86	111.86	100.00
内訳	職員 (人)	6.75	6.88	6.68	6.90
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		56,640	57,731	55,819	56,988
フルコスト (A+B)		59,740	61,031	59,119	60,338

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
		-	-	-	-
主な取組と成果		子育て家庭交流事業、世代間等交流事業、異年齢児交流事業、育児講座等を実施したことにより、交流事業数の増加が図られた。	子育て家庭交流事業、世代間等交流事業、異年齢児交流事業、育児講座等を実施したことにより、交流事業数の増加が図られました。	民間保育所の積極的な取り組みにより、事業実施保育所数の増加が図られました。	民間保育所の積極的な取り組みにより、事業実施保育所数の増加が図られました。
検証結果		A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		地域の子育て家庭や小中高生、お年寄りなどによる地域ぐるみの交流等を通じて、地域の子育て力を高めていく。	地域の子育て家庭や小中高生、お年寄りなどによる地域ぐるみの交流等を通じて、地域の子育て力を高めていきます。	地域の子育て家庭や小中高生、お年寄りなどによる地域ぐるみの交流等を通じて、地域の子育て力を高めていきます。	地域の子育て家庭や小中高生、お年寄りなどによる地域ぐるみの交流等を通じて、地域の子育て力を高めていきます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	放課後児童健全育成事業		
事業担当	健康・こども部 青少年課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'02	基本目標2 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	
	'01	①〈地域力〉 地域組織や市民活動の力を育て、まちづくりに活かす	
	'03	3 地域社会で家庭や地域の子育てする力を高める	
根拠法令等	児童福祉法、平塚市放課後児童クラブ条例、平塚市放課後児童クラブに関する実施要綱		
対象・受益者	小学生及び保護者	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO ○その他】【協働： 放課後児童健全育成事業運営委員】		
目的・目標		事業の概要	
保護者が昼間家庭にいない児童を対象に、家庭に代わる生活の場として放課後児童クラブを運営し、適切な遊びや指導を行うことで、児童の健全育成と、仕事と子育ての両立が実現しています。		柔軟で効率的な事業展開を図るため、事業運営を放課後児童クラブへ委託するとともに、安心・安全な保育環境実現のため、民間借家の放課後児童クラブを小学校余裕教室などの公共施設への移設を進めます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	施設整備に係る協議回数				単位	回
	説明・算定式	公共施設管理者や既存利用団体との交渉などの回数、専用施設建設に係る交渉などの回数					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	10	10	10	10		
	実績	10	10	10	10		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	施設整備件数				単位	件
	説明・算定式	既存公共施設への移設(分割を含む)や専用施設の建設などの整備件数の累計					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	8	10	12	14		
	実績	7	10	14	16		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	児童福祉法で市町村が実施に努めるべき事業と定めており、また最近では、女性の社会進出や児童が被害者になる犯罪の増加からニーズも高く、市が取り組む事業として高い必要性があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	少子化が進行する中でも学童保育の利用者は増加しており、その充実が市民満足度を高めるうえで有効です。少子化対策や次世代の健全育成を図るためにも有効な事業です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	学童保育が公的サービスであることから、応能負担の原則により、世帯収入に応じた適切な利用料金を研究する必要があります。また、ニーズが拡大していることから、人員配置の充実も求められます。	○ 高 ● 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	学童保育の運営は、保護者会を始めとする各種団体への委託方式により行われていますが、保護者会運営は働く親にとって負担になっているので、社会福祉法人やNPO団体等の活用も検討する必要があります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		児童クラブへの運営委託、施設整備など	児童クラブへの運営委託、施設整備など	児童クラブへの運営委託、施設整備など	児童クラブへの運営委託、施設整備等の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	37,988	47,187	62,810	71,100
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	96,411	100,746	117,134	115,510
事業費 (A)		134,399	147,933	179,944	186,610
執行率 (%)		95.55	100.77	118.54	93.15
内訳	職員 (人)	0.90	0.90	0.90	0.90
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		7,552	7,552	7,521	7,434
フルコスト (A+B)		141,951	155,485	187,465	194,044

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり	①: 予定どおり
	主な取組と成果	民間借家から公的施設等への移転推進。平成19年度は専用施設の建設1箇所(松延小学校区)、学校の余裕教室への移転2箇所(富士見小学校区、松が丘小学校区)、既存公的施設への移転1箇所(松原小学校区)を行った。なお、豊田学童の分庁舎移設が年度内に達成できなかったが、移転直前の改修工事までは完了した。	民間借家から公的施設等への移転推進の方針に基づき、平成20年度は大野小学校区放課後児童クラブを専用施設へ、豊田小学校区放課後児童クラブを既存公共施設への移設しました。また、大規模化している外国人児童専用のこひつじ学童クラブの分割も実施することができました。	平成21年度は、城島分庁舎を有効活用して放課後児童クラブを新設しました。また入所児童の増加が著しかった崇善・花水小学校区のクラブを分割するとともに、狭隘化が進んでいた神田・相模小学校区に新たなクラブを開設しました。	平成22年度は、湘南キッズ・サン・キッズ湘南学童保育室の2か所を新設しました。また、真土学童クラブの真土小学校への移転が確定し、移転の準備業務を進めました。
検証結果		B: おおむね成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		女性の社会進出等により学童保育に対する市民ニーズはますます高まっているが、その一方で、昨今の地震等の自然災害や犯罪発生傾向等を反映し、保護者からは学童保育所の安心・安全が求められている。このため、現在民間借家で運営されている学童保育については、できるだけ速やかに公設建物へと移転を進めていく必要がある。	女性の社会進出により学童保育のニーズが益々高まっている上、近年の地震等自然災害の発生や犯罪増加傾向等を反映し、学童保育の安心・安全が求められています。このため、学童保育の充実と、民間借家で運営されている学童保育についてはできるだけ速やかに公設建物へ移転を進めていく必要があります。	女性の社会進出により学童保育のニーズが益々高まっている上、近年の地震等自然災害の発生や犯罪増加傾向等を反映し、学童保育の安心・安全が求められています。このため、学童保育の充実と、民間借家で運営されている学童保育についてはできるだけ速やかに公設建物へ移転を進めていく必要があります。	女性の社会進出等により学童保育のニーズが益々高まっている上、近年の地震等自然災害の発生や犯罪増加傾向等を反映し、学童保育の安心・安全が求められています。このため、学童保育の充実と、民間借家で運営されている学童保育についてはできるだけ速やかに公設建物へ移転を進めていく必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	地域教育力ネットワーク推進事業		
事業担当	社会教育部 社会教育課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'02	基本目標2 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	
	'01	①〈地域力〉 地域組織や市民活動の力を育て、まちづくりに活かす	
	'03	3 地域社会で家庭や地域の子育てする力を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	青少年	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
子どもたちが、同世代また様々な世代間との交流を通し、地域活動に主体的に参加し、豊富な生活体験、社会体験、自然体験を積み重ね、「生きる力」をはぐくむ教育環境づくりができています。		子ども一人一人の自立と「生きる力」をはぐくむため、すべての中学校区地域教育力ネットワーク協議会において、こどもサポート看板の設置、夜間パトロールなどのほか、世代間交流、体験事業等を行い、教育力ネットワークづくりを推進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	地域教育力ネットワーク協議会代表者会議及び役員会開催回数				単位	回
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	7	7	7	7		
	実績	7	8	7	7		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	こどもサポート看板設置世帯数				単位	世帯
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	2070	2200	2230	2240		
	実績	2196	2205	2205	2032		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	子どもたちが地域社会へ主体的に参加し、様々な世代間交流、体験活動を積み重ね、生きる力を育むために、青少年関係団体や学校等で組織する教育力ネットワーク協議会が必要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	「平塚市地域教育力ネットワーク協議会」が発足14年を迎え、その取組が確実に定着してきました。地道な取組が継続されたことで、家庭・学校・地域のネットワークがつくられています。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低	
妥当性	<input type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	市としては活動に対して委託金を支出しているほか、情報交換の場として「代表者会議」、「役員会議」、「全体研修会」を開催して支援しており、妥当であると考えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	活動自体が各中学校区単位で、協議会が主体的に実施していることから、職員は会議や研修会等に従事するのみで、活動に対しては助言のみをしています。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		地域教育力ネットワーク協議会の活動支援	地域教育力ネットワーク協議会の活動支援	地域教育力ネットワーク協議会の活動支援	地域教育力ネットワーク協議会の活動支援
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	2,700	2,700	2,578	2,578
事業費 (A)		2,700	2,700	2,578	2,578
執行率 (%)		100.00	100.00	95.48	100.00
内訳	職員 (人)	0.30	0.30	0.38	0.45
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		2,518	2,518	3,176	3,717
フルコスト (A+B)		5,218	5,218	5,754	6,295

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	遅れている理由	-	-	-	-
主な取組と成果		各中学校区の教育力ネットワーク協議会の活動に対して補助金を支出した。平成19年度においては、例年の活動、事業が更に充実して行われ、夜間パトロールも通年で進んでいる地区が増えた。また、子どもサポート看板の設置数も住民や店舗等の協力で着実に設置数が増え、地域での子どもたちを守る活動や健全育成のための様々な取組が充実した。	各中学校区の教育力ネットワーク協議会の活動に対して補助金を支出した。平成20年度も引き続き、地域の特性を生かした事業が充実してきています。共通の取組である夜間パトロールは通年で進んでいる地区が増えてきており、子どもサポート看板の設置数も設置数増だけでなく、設置場所の見直しも行われています。このように地域での子どもたちを守る活動や、生きる力を育む様々な取組が充実してきました。	各中学校区地域教育力ネットワーク協議会の共通事業として、パトロール、子どもサポート看板の設置・管理及び研修会への参加の3つを位置付けました。夜間パトロールは通年で進んでいる地区が増えてきており、また子どもサポート看板の設置についても設置数増だけでなく、設置場所の見直しも行われています。このように地域で子どもたちを守る活動が進められてきました。	各中学校区地域教育力ネットワーク協議会では、子どもたちの主体的参加を通し、世代間の交流、生活体験、自然体験を積み重ね、「生きる力」を育むため様々な事業を行っております。共通事業として、パトロール、子どもサポート看板の設置・管理及び研修会への参加を位置付けています。これらの諸活動を通して地域で子どもたちを守る活動が進められました。
検証結果		A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった	A:成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開	平成24年度への展開
今後に向けた課題		各教育力ネットワーク協議会ごとで、活動面での交流も図られるように情報交換の場を充実・提供していくことが必要であり、各地区の活動の活性化方策について研究が必要である。	各教育力ネットワーク協議会ごとで、活動面での交流も図られるように情報交換の場を充実・提供していくことが必要であり、各地区の活動の活性化方策についても、話し合いや研究の場として研修会を充実させる必要があります。	各地区協議会ごとで、活動面での交流も図られるように情報交換の場を充実・提供していくことが必要であり、各地区の活動の活性化方策についても、話し合いや研究の場として研修会を充実させる必要があります。	各地区協議会がそれぞれの地域の中で主体となって実施している事業は何か、またその事業が子どもたちの「生きる力」をはぐくむことに繋がっているのかどうか改めて検証する必要があります。また、各地区協議会の実施事業について、活動面での交流も図られるように情報を随時提供していく必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	子ども読書活動推進事業		
事業担当	社会教育部 社会教育課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'02	基本目標2 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	
	'01	①〈地域力〉 地域組織や市民活動の力を育て、まちづくりに活かす	
	'03	3 地域社会で家庭や地域の子育てする力を高める	
根拠法令等	子どもの読書活動の推進に関する法律		
対象・受益者	全市民、乳幼児～高校生	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO ○その他 】【協働： 各地区の推進協議会 】		
目的・目標		事業の概要	
身近なところに本と出会える環境・機会を整えることで、子どもの読書への興味・関心を喚起し、人生をより豊かに生きるための知性や感性がはぐくまれています。		子どもの読書活動をより一層充実するため、各中学校区子ども読書活動推進協議会の協力のもと、家庭・地域・学校・行政とが連携し、平塚市子ども読書活動推進計画（第二次）に基づいて全市的な読書活動を推進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	子ども読書活動推進協議会設置数				単位	か所
	説明・算定式	設置対象地区：全15中学校区					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	12	15	15	15		
	実績	12	15	15	15		
活動指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						
成果指標①	指標名	小・中学校の読書に関するボランティア数				単位	人
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標	1900	1950	2000	2050		
	実績	1950	2000	2000	2000		
成果指標②	指標名					単位	
	説明・算定式						
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度		
	目標						
	実績						

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受け、本市の「平塚市子ども読書活動推進計画」を策定して、これにより行政と地域が連携して行う事業として推進しています。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	子どもが本と触れ合える機会の提供、読書に関する環境整備が進むことで、学校だけでなく地域や公民館などあらゆる場で取り組みが推進され、子どもや保護者の読書への関心が高まり、活動の満足度が高まっています。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制（人員配置、業務分担） <input type="checkbox"/> その他	地域・学校・家庭が連携して読書活動を推進するという会国的に見ても先進的な取組です。事業の実施主体は、市が委託する中学校区ごとの推進協議会であり、職員は活動に対しての支援をしており、妥当です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法（民活の余地、事業形態の検討） <input type="checkbox"/> その他	市の直接事業でなく、学校や公民館で活動している地域ボランティアによる協議会へ委託していることから、事業コストは最少限度です。費用対効果は高いと判断します。	● 高 ○ 中 ○ 低	

## 3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額	平成22年度 決算額
事業内容		子ども読書活動推進協議会の増設	推進協議会の増設、推進計画改定	ネットワーク充実など、計画改定・製本	ネットワーク充実等、計画の推進
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	1,244	1,372	1,359	1,391
事業費 (A)		1,244	1,372	1,359	1,391
執行率 (%)		95.69	90.86	90.00	92.70
内訳	職員 (人)	0.90	0.90	0.73	1.15
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		7,552	7,552	6,100	9,498
フルコスト (A+B)		8,796	8,924	7,459	10,889

## 4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分	平成22年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり	①:予定どおり
	主な取組と成果	新たに8中学校区に学校司書の配置と併せて、地域の方々と協働で子ども読書活動推進協議会を立ち上げた。子ども読書活動推進協議会の設置により、既設の4地区と合わせて計12地区において、地域・学校・家庭が連携した読書活動を推進し、子ども読書活動の充実を図ることができた。	既設の12中学校区の子どもの読書活動推進協議会に加え、平成20年度も地域の方々と協働で3中学校区に子ども読書活動推進協議会を立ち上げ、市内全中学校区に子ども読書活動推進協議会の設置が完了したことで、より一層、地域・学校・家庭が連携した読書活動の充実を図ることができました。また、第2回子ども読書活動推進フォーラムを中央公民館で開催し、多くの市民に子ども読書活動の取り組みを周知・啓発できました。	市内の全15中学校区の子どもの読書活動推進協議会と連携を図り、より一層、地域・学校・家庭が連携した読書活動の充実を図ることができました。また、子ども読書活動推進フォーラム(全市民的なフォーラムとしては3回目)を中央公民館で開催し、多くの市民に子ども読書活動の取り組みを周知・啓発できました。	子どもの読書活動をより一層推進するため、関係機関と連携し、各中学校区子ども読書活動推進協議会への支援を行いました。また、講演や実践事例を通して、読書活動の重要性を広く啓発するとともに、子どもが読書に親しむための環境づくりに努めることを目的として、子ども読書活動推進フォーラムを中央公民館で開催しました。また、各地区協議会の連携を推進するためのネットワーク組織として、平塚市子ども読書活動ネットワーク運営委員会が組織されました。
検証結果		A:成果があがった 平成21年度への展開	A:成果があがった 平成22年度への展開	A:成果があがった 平成23年度への展開	A:成果があがった 平成24年度への展開
今後に向けた課題		次期の「平塚市子ども読書活動推進計画」策定の際には、今後の本市の読書活動推進の方向性等について、市民意見をパブリックコメントで広く募集するだけでなく、読書活動をしているボランティアの方々や、活動に参加された地域の保護者の意見も取り入れて、検討しながら策定する方向で考えている。	「平塚市子ども読書活動推進計画(第二次)」の策定に際して、今後の本市の読書活動推進の方向性や、必要な事業、取り組むべき事業などを市民の視点から考えるために、読書活動をしているボランティアの方々を策定委員のメンバーとして参画してもらい、検討しながら策定する方向で考えています。	「平塚市子ども読書活動推進計画(第二次)」を推進し、全15中学校区の子どもの読書活動推進協議会からなるネットワーク組織を設立して各協議会へのサポートや関係機関との連携を推進していきたいと考えます。	「平塚市子ども読書活動推進計画(第二次)」に基づき、子ども読書活動のより一層の推進を図るため、各中学校区子ども読書活動推進協議会の活動を支援するとともに各協議会の連携を図るためのネットワーク組織の充実を進めていきたいと考えます。